



2020年度活動報告

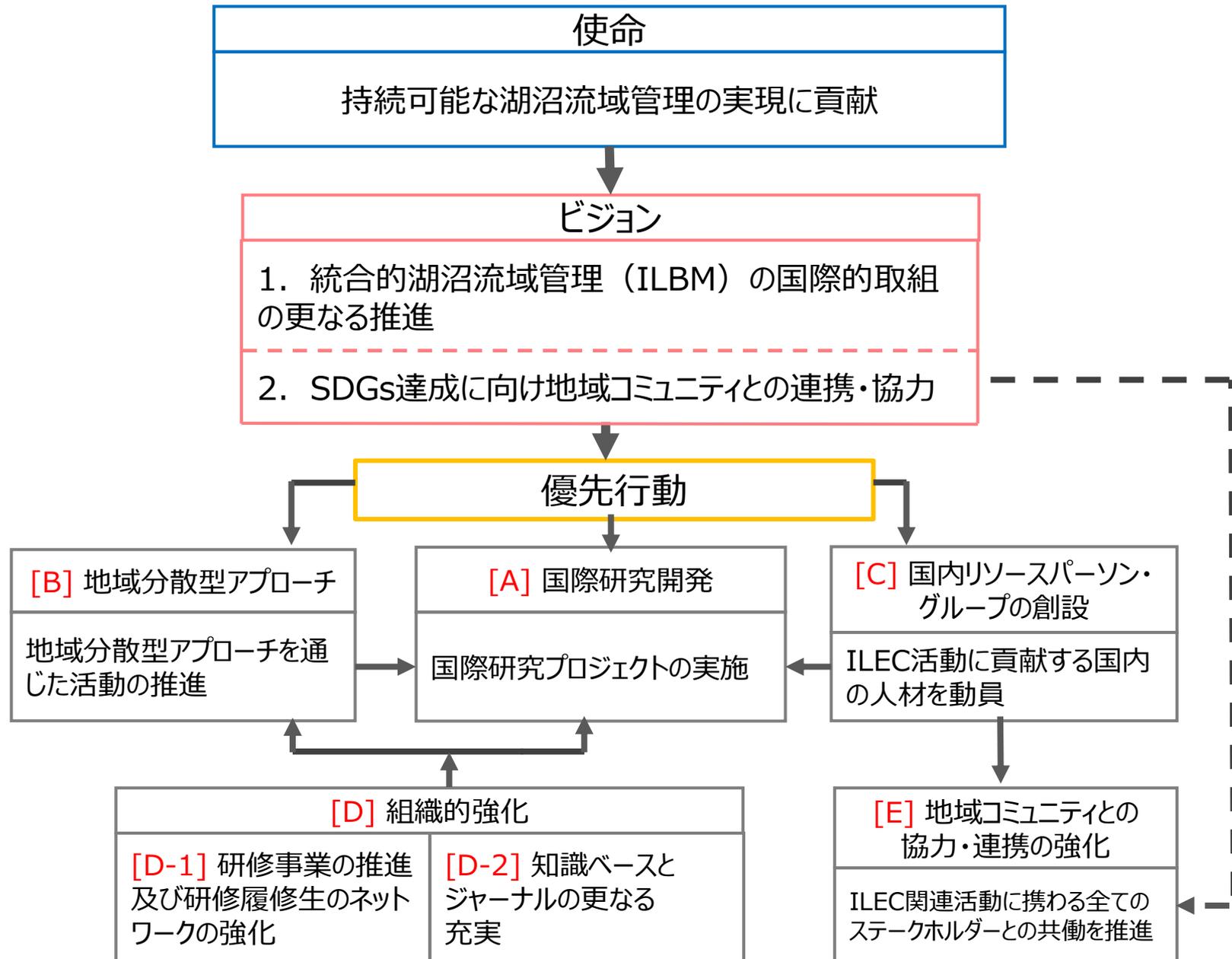
2021年3月10日

(公財) 国際湖沼環境委員会

理事長 竹本和彦

副理事長 中村正久

ILEC 中期展望 (2018 - 2022)



現行のILBM普及啓発及び関連事業

優先行動[A],[B]及び[D-2]に対応

• アフリカにおけるILBM推進事業

- 「Development of ILBM Platform Process – 2nd Edition」の
フランス語版を発行（2021.1）

• 科学委員会活動との連携による普及事業

- インドネシア：世界湖沼会議開催を通じた協力関係を踏まえた研修支援
（2014-2020）

• LAKES知識ベースシステムの構築支援及び協力機関との連携

- 滋賀大学とのLAKESシステムの知的財産権共有の覚書を締結
（2020.12）
→ 今後、利便性を深化させたLAKESIVの開発に着手。

JICA-ILEC 研修の実施

優先行動[D-1]に対応

• 課題別研修（JICA受託事業）リモート

- 「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」コース（2021.1-2）

• シラバス改訂業務（JICA受託事業）

- 「統合的湖沼・河川・沿岸流域管理 研修教材改訂業務」

（2019.7-2021.3）

途上国の研修ニーズに応じたシラバスの改訂を実施

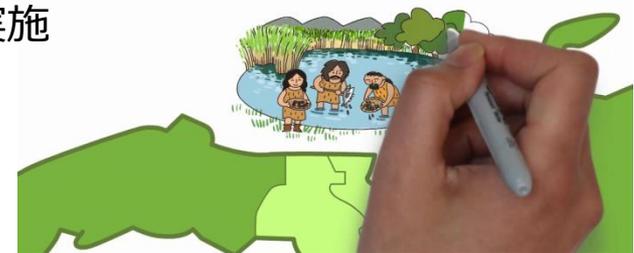
- モジュールの改訂
- Video tutorial作成
- Training Materialsサイトの改修

Everyone Lives in the Basin of some Lentic System, and ILBM helps them Live Happily



M. Nakamura, RISE Shiga University, Executive Director and Vice President, ILEC Foundation

One of the world's ancient lakes



Distribution map of 15 National Priority Lakes (Indonesian Ministry of Environment, 2011)

JICA-ILEC 課題別研修 (リモート)

優先行動[D-1]に対応

「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」コース (2021年1月25日～2月12日) (JICA受託事業)

- アルバニア、バングラデシュ、ボツワナ、ネパールの4カ国から6名が参加

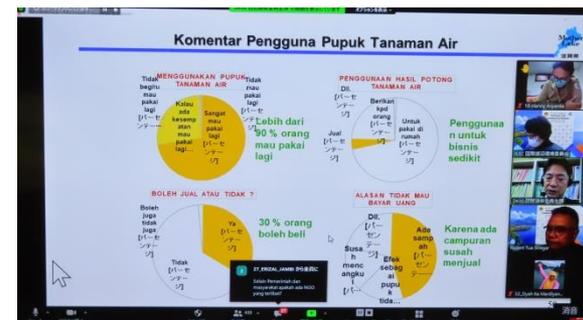


環境省インドネシア研修（リモート）

優先行動[D-1]に対応

「インドネシアにおける湖沼水質改善のための調査検討」研修
(2021年1月18日～22日)〔環境省（OECC）受託事業〕

- 693名が参加



ニカラグア 琵琶湖モデルセミナー（リモート）

優先行動[D-1]に対応

「JICAニカラグア事務所職員向け琵琶湖モデルセミナー」
(2020年12月17日)〔滋賀県受託事業〕

- 20名が参加



JICAとの連携協議

(2021年1月15日)



JICAニカラグア琵琶湖モデルセミナーを機に、 今後のJICAとの連携を協議

- 中南米での湖沼流域管理の発展に向け、
メキシコでの世界湖沼会議において、JICAの参加と協力を依頼。
- 今後も定期的に協議の場を継続して設けることで合意。

コロナ後に向けて、種をまく



JICA本部 地球環境部
西村次長、三村課長、池上課長、他職員1名
JICA関西 業務第一課
木村課長、他職員1名

公益財団法人 国際湖沼環境委員会 (ILEC)

副理事長 中村 正久 (滋賀大学特別招聘教授)

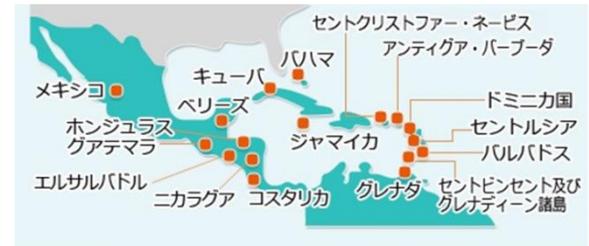
事務局長 青木 幸一
次長 西堀 弘行
調査研究課長 小池 秀機

支援研修課長 山崎 伸子 (本日所用のため)

ミレー『種をまく人』

<https://yurubi.life/tane/> 著作権フリー記載あり

2021/1/15 JICA、ILEC懇談会



国際ウェビナーの開催 (2020年10月27日) [ビジョン1]に対応

UNEPとの共催により
湖沼流域管理の重要性を世界に発信

- 各国の湖沼流域管理の現状報告
 - 地域でのILBM実施に向けた取組や課題
 - 世界の水問題における湖沼の主流化の重要性
- 27カ国**
133名の視聴

INTERNATIONAL WEBINAR 2020 on zoom

By United Nations Environment Programme (UNEP) and International Lake Environment Committee (ILEC)

**Mainstreaming Lakes
in the Global Water Agenda**



Oct. 27, 2020
6:00 pm – 8:00 pm
Japan Time (UTC +9)

Lake Basin Management Experiences
in Asia & Africa:
Toward Global Cross-fertilization



Free Registration:
https://zoom.us/join/register/WN_WGqJhDIRKWasMbdToww
Email: webinar@ilec.or.jp Tel: +81-77-568-4567



国際ウェビナー パネリスト

開催挨拶	チアン・リウ	国連環境計画(UNEP) サイエンス・ディビジョン 局長
開催挨拶	竹本 和彦	国際湖沼環境委員会(ILEC) 理事長
	[パネリスト]	
アメリカ	ウォルター・ラスト	ILEC科学委員長 「世界の水問題における湖沼の主流化」
日本	筒井 誠司	環境省 水環境課長 「日本の湖沼の水環境管理」
インドネシア	ラクスマ・デワンティ	インドネシア共和国産業・国際貿易環境林業省上級顧問 「インドネシアにおける持続可能な湖沼管理」
フィリピン	アメリタ DJ オルティス	環境天然資源省生物多様性管理局副主幹 「フィリピンにおける湖沼管理の取り組み」
インド	マンジュ・パンディ	インド政府 環境・森林・気候変動省 共同書記官 「インドの湿地保全プログラム」
マレーシア	ザティ シヤリップ	マレーシア国立水理研究所 主任研究員 「マレーシアの水セクターの改革に向けたILBMの取り組み」
ネパール	プラバ・パンディ	国家湖沼保全開発委員会プログラム担当官 「ネパールにおける湖沼・湿地の持続可能性のためのILBMアプローチ」
ケニア	ダニエル・オラゴ	ナイロビ大学 気候変動・適応研究所 教授・ILEC科学委員 「ケニアにおける湖沼管理の現状とILBMにおいて東アフリカとの協力」
セネガル	サリフ・ディオップ	チェイク・アンダ・ディオップ大学 教授・ILEC科学委員 「西アフリカにおけるILBM実施のための課題」
ディスカッション 司会	中村 正久	ILEC副理事長

国際ウェビナー まとめ

- 各国の水政策の中で湖沼の主流化に大きな進展。
- 一方、特に制度面や人的資源の限界により、非常に深刻な課題に直面している。
- 各国の湖沼や湖沼水の重要性を国際レベルで認識することが必要。



今後の第5回国連環境会議、第18回世界湖沼会議、第9回世界水フォーラムなどの国際的な「湖沼流域管理の主流化」の機運の高まりに繋がることが期待される。



◎ 各国水環境分野および政府代表部局へウェビナー概要を報告。

JICA関西の地域理解プログラムに協力 (2020年11月13日) 優先行動[E]に対応

JICA研修員の日本理解の深化促進となる地域開発体験プログラム

「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」に協力

会場：琵琶湖・滋賀県立琵琶湖博物館

対応：中村副理事長、井手評議員



地域社会貢献プロジェクトに協力 (2020年11月7日) 優先行動[E]に対応

事業名：目田川秋の環境学習会

近畿労働金庫、びわこ豊穰の郷との共催

会場：守山市立図書館

大麦ストロー作りを通じて、琵琶湖の湖底ゴミやプラスチックゴミ問題について学習し、
ゴミ拾いの体験学習を通じて、身近な環境保全を学んでいただく



アウトリーチ活動の充実に向けて

- ILEC広報媒体を活用した今後のアウトリーチ活動の充実、団体活動の見える化に向け、ホームページ改良の検討を進めている。

The screenshot shows the ILEC website homepage. At the top left is the ILEC logo and the text "International Lake Environment Committee Foundation (ILEC)". To the right are links for "Search", "Contact & Access", and "JA / EN". Below this is a dark blue navigation bar with menu items: "Home", "About ILEC", "What we do", "World Lake Conf.", "Publications", and "World Lake DB". The main content area features a large banner image of a lake with boats and the text "Save Water, Save Lakes". Below the banner, a heading states: "ILEC's activities consist of the following three major areas for the sustainable world lake basin management." Three circular icons represent the activity areas: 1. "Foundational Service to Protect World Lakes" with sub-points "World Lake Conference" and "Scientific Committee". 2. "Training on Lake Basin Management" with sub-points "ILBM Training" and "Environmental Education". 3. "ILBM Dissemination with UN Organizations" with sub-points "Renewed MOU with UNEP" and "Integrated Lake Basin Management".

科学委員会役員会の開催

(Web会議：2021年2月26日)

[ビジョン1]に対応

- 第18回世界湖沼会議準備状況・第19回会議開催地選考状況
- 湖沼の主流化の進捗状況
- 科学委員会の今後の体制に向けて
- 科学委員会活動基金について



科学委員会役員会出席メンバー

科学委員会

委員長	W. ラスト (アメリカ)	テキサス州立大学 名誉教授、 水環境低湿地センター／ 国際流域研究所 所長
副委員長	A. サントス・ボルハ (フィリピン)	ラグナ湖開発公社(LLDA) 資源管理開発部 第三部長
副委員長	S. ディオップ (セネガル)	セネガル科学技術アカデミー 農芸化学部門 会員
役員	S. アゼベド (ブラジル)	リオデジャネイロ連邦大学 カルロス・シャーガス・フィリオ物理学研究所 教授
役員(欠席)	D. オラゴ (ケニア)	ナイロビ大学 地質学部 教授／気候変動適応研究所 教授

ILEC	竹本 和彦	理事長
	中村 正久	副理事長
	青木 幸一	事務局長
	西堀 弘行	事務局次長
	小池 秀機	調査研究課長
	竹本 記代子	調査研究課 プロジェクトコーディネーター

科学委員会役員会 協議結果

• 第18回世界湖沼会議準備

- グアナファト大学より3月中に詳細が報告される予定。
- 従来会議とオンライン会議のハイブリット型会議の可能性あり。
- 科学委員や滋賀県、学生などの参加の仕組みを検討していく。

• 第19回会議開催地選考

- ハンガリーのバラトン湖は提案書が提出されている。
- オーストラリアのブリスベンは、開催予定年の変更により他の可能性も含め検討中。

• 湖沼の主流化の進捗状況

- 現在、ラスト委員長とUNEPパトリック氏によりレポートを作成中。
- 科学委員のネットワークにより各国政府への働きかけを今後検討。
- 第5回国連環境総会（UNEA-5）に向け、インドネシア政府から提案書が提出される予定であったが、提出されなかった。引き続き次回UNEAに向けて調整を進める。

• 今後の体制に向けて

- 現主導委員退任後の損失を埋めるため、フェロー・アソシエイト制度導入の方向で検討。

• 科学委員会活動基金

- 各地域活動の始動時支援資金の位置づけで活用していく方向。

まとめ

1. 湖沼流域管理の主流化

➡ 国際ウェビナーで世界的ニーズが確認されたことより、UNEPと共同し湖沼流域管理の世界的な主流化を目指す。

2. 科学委員会活動の活性化

➡ 湖沼流域管理の主流化実現に向け、科学委員会との連携を深め、科学委員会活動の一層の活性化に向けた支援を強化していく。

3. 研修事業の推進

➡ 改訂されたシラバスとリモートによる研修実績を活用し、より効果的な研修事業の推進を目指す。

4. 地域コミュニティとの連携・協力の強化

➡ 滋賀県及び関係ステークホルダーとの一層の連携を図る。

5. ILBM普及促進

➡ JICAおよびJICA研修履修生との連携強化を図り、さらなるILBMの普及を進める。